

オフロードレース、プロ含め400人が出場

▶2011年度JNCC全日本クロスカントリーエンデュロ選手権



北外輪山の阿蘇観光牧場や夢☆大地グリーンバレーでは、オートバイによるオフロードレースが10年ほど前から年間4～5回開催されています。

オフロードとは未舗装の道なき道进行することで北外輪では、野焼きの防火帯輪地をコースにすることで輪地切りの手間を省く利点も兼ねています。

11月20日は、阿蘇観光牧場でプロも参戦した最終戦が開催され、選手約400人が2時間の耐久レースに挑みました。またレースの観戦者ほか、会場にはオートバイ関連商品のブースも設けられ多くの人たちで賑わいました。コースに恵まれた阿蘇はオフロードのメッカと言えます。

阿蘇で関東の大学生が観光学実習

▶“グリーンツーリズム in 阿蘇”



東海大学観光学部（神奈川県）の学生7人が、授業の一環として、阿蘇市と南阿蘇村で実習を行いました。実習の目的は、「地域固有の資源を活かして観光と地域振興とを両立されているか」を学習し提案をするもので、6日間の日程でほとんどの観光名所を巡り、店、飲食、宿泊所の接客や内容、交通、美化、もてなし、取り組み、まちの雰囲気などを調査しました。

学生がまとめたレポートは後日、阿蘇市はじめ関係団体に配布。関東の若者の目線での意見は本市を再発見するよい機会となりました。今後も本市ではこのような実習・研修を受け入れていく計画です。

阿蘇一の宮ライオンズクラブが木製ベンチを寄贈



阿蘇一の宮ライオンズクラブ（田中則次会長）は11月25日、公園の利用者に使ってもらおうと、運動公園横の芝生広場に木製のベンチ2基を寄贈しました。

ベンチは横2メートルで檜とスギを使用した温かみのあるベンチで、田中会長は「高齢者の方が地面に座っているのを見かけるので、ベンチでゆっくり腰かけてもらいたい」と話していました。また、ベンチは今後も寄贈し増やしていく予定とのこと。

◀ベンチは、穴を掘り手作業で自ら設置しました。

熊本県理容環境衛生組合阿蘇支部が散髪の奉仕

熊本県理容環境衛生組合阿蘇支部（西誠治支部長）は12月19日、阿蘇市の福祉施設（みやま荘、たちばな園、あそん里）に出向き、入所者約120人の散髪を無償で行いました。このボランティアは社会奉仕として毎年、盆前と正月前に行われています。





有志4人が日本古来の雅楽を披露

▶お寺deライブ in 満徳寺



▲SAMのコンサート

▶有志4人による
雅楽の演奏



静かな紅葉の美しいお寺を会場にしたライブが12月3日、内牧の浄土真宗本願寺派満徳寺で行われました。関西在住のプロのシンガーSAMのコンサートで、その前座に、満徳寺門徒の有志でつくる「あんちゃん会」(今村俊弘会長)の雅楽部が出演し、めずらしい雅楽の音色を奏でました。

同部は7年前に結成。岡崎了明住職の指導のもと、竹管17本で作られた楽器「笙」、縦笛の「篳篥」、横笛の「竜笛」を練習してきました。一般の人の前での演奏はこの日が初めてということでしたが、お御堂の雰囲気にもマッチし観客を魅了しました。また、本ライブ主催の薄井良文さんら市民有志で活動中の「あそBe隊楽団」も前座で出演しライブを盛り上げました。

名誉市民藤田義光氏の生誕100年を偲び法要と記念碑への参拝



新聞記者から38歳で衆議院議員初当選(昭和24年)、以来9期24年8ヶ月にわたり同議員を務め、自治政務次官、内閣委員長などの要職に就き国政で活躍された、車帰出身の故藤田義光氏の生誕100年を記念した法要が、氏の誕生日である11月30日、内牧の満徳寺で行われました。

藤田氏は昭和61年75歳で逝去。偉大な政治家として旧阿蘇町の名誉町民に認定。現在名誉市民として称えられています。

生誕100年の日は、記念法要が行われたほか、有志の方々が勲一等瑞宝章に輝く氏の業績を称え二重峠に建立した記念碑への参拝などがあり、たくさんの方々が氏を偲びました。

道路清掃に汗。区長代々の奉仕作業

▶長寿ヶ丘幹線道路



冬の積雪を前に、恒例の狩尾1・2・3区の区長による市道狩尾幹線の清掃作業が、12月1日ありました。狩尾幹線は狩尾の集落から長寿ヶ丘公園を通りミルクロードまでの延長5.7kmの道路で、放牧用道路として、また、眺望の名所として知られています。

道路の草切りや清掃は、有畜農家が定期的に行うほか、狩尾の区長も代々清掃活動が続けており、先輩より受け継がれた美化奉仕作業として、この日も落ち葉払いや側溝清掃に汗を流されました。地元の管理道路はこうした地域の皆様のご尽力で道路環境が保たれています。